



## 佐賀および長崎への国内研修旅行についての報告

九州大学グリーンアジア国際リーダー教育センター助教  
**渡辺 貴史**

### <概要>

2016年12月12日および13日の二日間をかけて、1日目には佐賀県吉野ヶ里町の吉野ヶ里メガソーラー発電所および長崎県長崎市の長崎原爆資料館を、二日目には同長崎市の三菱造船博物館および長崎県諫早市の諫早干拓資料館での研修を行った。この研修にはグリーンアジアの学生が19名、IEIの学生が11名、教員2名の計32名が参加した。両日も学生諸君は旺盛な学習意欲を示して、各見学地の関係者に質問をしたり、仲間同士で議論を交わすなど、終始活発な活動を続けた。期間中怪我や事故もなく、全員が充実した研修を行った。

### <研修の目的>

本研修の目的は、北部九州に拠点を置く日本を代表する企業や九州北部の歴史的文化的施設、あるいは地域の環境問題に関わる施設を訪問することによって、日本の商工業および環境政策の現状を理解することにあった。特に留学生諸君に対しては、日本の現状を直接見ることによって、知見を深める機会を提供することにあった。さらに、多くの国々からの留学生及び日本人学生諸君が、ともに行動し議論しあうことで、互いに刺激し合い友好関係を育む機会を提供することであった。またその過程で、英語によるコミュニケーション能力を向上させることにあった。

### <日程>

日程は以下のものであった。移動はバス1台で行った。

| 12月12日(月)   |                           |
|-------------|---------------------------|
| 09:00-09:50 | 伊都キャンパス発→筑紫キャンパス着         |
| 10:00-11:00 | 筑紫キャンパス発→佐賀吉野ヶ里メガソーラー発電所着 |
| 11:00-11:10 | ビデオによる説明                  |
| 11:10-12:10 | 施設内部の見学                   |
| 12:10-12:40 | 技術者らとの意見交換                |
| 12:50-15:30 | 吉野ヶ里メガソーラー発電所発→長崎原爆資料館着   |
| 15:30-17:15 | 長崎原爆資料館および平和記念公園の見学       |
| 12月13日(火)   |                           |
| 09:30-10:15 | 宿泊施設発→三菱造船所博物館着           |
| 10:15-11:15 | ビデオによる説明及び博物館内の見学、質疑応答    |
| 11:15-13:00 | 三菱造船所博物館発→諫早干拓資料館着        |
| 13:10-14:10 | 施設内の見学および担当者との意見交換        |
| 14:45-17:30 | 諫早干拓資料館発→筑紫キャンパス着         |
| 18:30       | 伊都キャンパス着、解散               |

### <学生への課題について>

まず学生は5~6名の小さなグループに分けられ、各グループそれぞれには1名の日本人学生が配置された。各グループでは、リーダー及び副リーダーがそれぞれ1名ずつ指名され、彼らはグループ全員が支障なく研修を行えるように様々な配慮をするように求められた。また日本人学生は、研修全般を通じて、グループ内の他の留学生の通訳の役目を果たすよう求められた。

その上で、グリーンアジアの学生には、次のような課題が与えられた。

### 研修旅行前:

●見学を訪れる各施設について各自下調べをしておくこと、及び見学当日にすべき質問を各自少なくとも二つは考えておくこと。

### 研修旅行中:

●各グループのリーダーは、各メンバーが考えた質問内容を精査し、メンバーと相談の上で適切な質問を各訪問先につき2つ選択し、発表すること。

●各グループの日本人学生は、各施設で日本語の説明が行われた場合や質疑応答において、自分のグループのメンバーに対してわかりやすく英語に翻訳し説明すること。また、メンバーの英語での質問を日本語に翻訳して担当者に伝え、議論を円滑に進めるよう努力すること。

### 研修旅行後:

●各グループそれぞれがレポートを提出すること。  
 ●レポートの執筆にあたって、グループ内の各学生が、それぞれレポートの一章を受け持つこと。また、リーダーと副リーダーには、レポートの編集と提出について責任をもつこと。



### <総評>

総勢32名の国内研修であったが、学生諸君はグループごとにリーダーの指導のもと、きびきびとした態度で熱心な学習意欲を見せながら、つつがなく



日程を終えることができた。工場見学及び技術者との質疑応答の際には、日本語での説明を日本人学生がそれぞれのグループメンバーに対して逐一通訳をし、また留学生が英語で質問する際には、分かりやすい日本語に翻訳して伝えていた。どの見学地においても、議論は熱心に続けられ、学生諸君からの質問が絶えることはなかった。

課題であるレポートは、すべての各グループから締め切り前に提出された。提出されたレポートは、いずれも英文レポートとしての体裁を整えており、また規定の文字数を満たした内容の濃いものに仕上がっていた。

以上のことから、今回の国内研修は、十分にその目的を達成したものである。